

令和元年度実施施策に係る政策評価書

(内閣府1-50(政策15-施策①))

政策名	食品の安全性の確保					
施策名	食品健康影響評価技術研究の推進					
達成すべき目標	信頼性の高いリスク評価の効果的・効率的な実施を促進する。					
施策の概要	【施策の概要】 食品健康影響評価の推進のため、あらかじめ研究領域を設定し公募を行う提案公募型の競争的研究資金制度の下、リスク評価に関するガイドライン・評価基準の策定等に資する研究を委託方式にて実施する。					
	【平成29年度～令和元年度に実施した具体的取組】 毎年度、優先実施課題を策定し、上記公募を行い、研究・調査企画会議事前・中間評価部会での審議を経て、研究課題の採択を行った(H29:6課題、H30:8課題、R1:9課題、各課題の研究期間は1～3年間)。一方で、平成29年度及び平成30年度に終了した研究課題(8課題、6課題)については、終了翌年度に同会議事後評価部会で評価を行い、また、同会議プログラム評価部会において、当該課題も含めた研究課題について、追跡調査の結果等を踏まえプログラム評価を実施した。					
施策の予算額・執行額 (単位:百万円)	区分	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度	
	予算の状況	当初予算(a)	176.9	183.5	193	199
		補正予算(b)	-	-	-	-
		繰越し等(c)	-	-	-	-
		合計(a+b+c)	176.9	183.5	193	-
執行額	174	175.1	175.1	-		
施策に関係する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)	第197回国会(平成30年11月) 宮腰大臣所信表明(関係部分抜粋): 食品の安全性の確保のため、国内の制度改正も踏まえ、新たな評価方法を確立する等、科学的知見に基づき、客観的かつ中立公正に食品健康影響評価を行うとともに、その評価結果についてリスクコミュニケーションを実施してまいります。					

測定指標	区分	主要な指標	測定指標	施策の実績・進捗状況							
				基準値	目標値	年度ごとの実績値					達成状況
				27年度	令和元年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	
定量的指標	□	1. 評価基準、ガイドライン、リスク評価書の作成等に研究成果が引用された課題の割合(研究終了後2年時点までの課題を対象とする)(%)	7%	30%	7%	42%	31%	29%	38%	○	
			【測定指標の定義及び選定理由並びに目標値(水準・目標年度)の設定の根拠】 効率的なリスク評価を行うためには、研究の結果、リスク評価に資するガイドライン・評価基準、リスク評価書の作成等へ活用されることが望ましいことから、研究成果が引用された割合を指標とすることが適当。その割合を大きく向上させる観点から、これまでどおり30%を目標として設定。なお、研究課題は、研究終了次年度の事後評価を経てから活用されるものが多いことから、研究終了後、2年間に活用された課題数を計上している。								
定量的指標	□	2. 国内外の学術誌に掲載された論文数(研究終了後2年時点までの課題を対象とする)(1課題あたり平均)	1.8	2.7	1.8	1.6	1.5	2.2	1.9(暫定値)	△(暫定)	
			【測定指標の定義及び選定理由並びに目標値(水準・目標年度)の設定の根拠】 信頼性の高いリスク評価を行うためには、その手法が国内外で広く知られていることが望ましいため、研究成果に基づき、国内・国外で学術誌に掲載された論文の数を指標とすることが適当。その数を向上させる観点から、令和元年度には基準値の50%増を目標として設定。なお、論文については研究終了後2年以降に掲載されるものも多いが、基準値及び目標値の観点から、研究終了後2年間に掲載された論文数を計上している。								

評価結果	目標達成度合いの測定結果	(各行政機関共通区分) ② 目標達成 (判断根拠) -
	施策の分析	【測定指標の観点からの分析】 ○測定指標1(主要な指標)については、目標を達成した。食品影響評価の実施に関する研究の有用性に重点を置き、研究課題の選定等を行ったことにより、研究成果を着実に食品健康影響評価等に活用できたと考えられる。 ○測定指標2については、毎年、10月に各研究者に追跡調査を実施しており、令和元年10月時点の実績を暫定実績とした。論文掲載までの手続に時間を要するため、研究終了後2年間に1課題あたり論文数2.7は高い目標値であるが、受託に当たり研究成果の活用が求められる受託研究者に対し、論文投稿を促すこととする。
	次期目標等への反映の方向性	【次期の施策の方向性について】 引き続き推進 【次期の測定指標の考え方について】 研究成果がどの程度引用されているかにより当該研究成果の有効性や需要を測ることが可能であることに鑑み、現行の測定指標は、「信頼性の高いリスク評価の効果的・効率的な実施を促進する。」という施策の目標の測定指標として適切であると考えられる。よって、引き続き同様の測定指標により評価することとする。 【根拠とした統計・データ等】 -

学識経験を有する者の知見の活用	-
-----------------	---

政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報	-
---------------------------	---

担当部署名	食品安全委員会事務局	政策評価実施時期	令和2年8月
-------	------------	----------	--------